

No.154

# 全 友

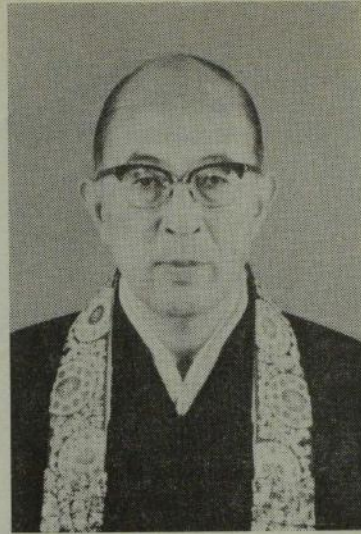
2/45.



静岡市感応寺

# 就任にあたって

全日本仏教会会長 大 谷 光 照



このたび皆様のご推挙により、会長に就任することになりました。問題の多い内外の情勢下に、かような要職につく資格があるとは思いませんが、皆様のご協力、ご督励により、及ばずながら職責を全うさせていただきたいと、念願しております。

日本をふくめて、世界はいま激しく揺れ動いています。平和が強く叫ばれながら、ベトナムに、アラビヤに戦火は絶えません。さらに冷戦の程度ならば、世界の各地にその状態を見ること、ができません。他方、各国の国内事情に目をやりますと、人種問題、宗教の対立、大学紛争をはじめ、社会の不安と混乱を起こす要因が数多く見られます。こうした世界の現況に思いをいたす時、人類の真

の幸福と平和ははるかに遠いところにあるといわねばなりません。

ユネスコ憲章には、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」とあります。まことにそのとおりですが、そこで問題なのは、その平和のとりでをどのようにして築くかということであり、突きつめると、人間の生き方にまで問題を掘り上げてゆかなくては解決の道は見いだせないのではないのでしょうか。ところが現代人は、いまやお互いの間に、つながりを持ちえない方向に追いやられつつあるように思われます。その結果、人類は抜き差しならぬ窮地に陥る恐れが大いにあります。これでは平和のとりでを築くどころか、争いの種、対立の原因を作っているようなものです。では、そのような窮地に陥らないためには、どうしたらよいのでしょうか、またどのようにしたら心の中に平和のとりでを築くことができるのでしょうか。

こう考えてきますと、私共仏教徒の脳裏に浮ぶのは、平和の清規として世界に誇る聖徳太子の十七条憲法であります。混沌と動乱をくりかえしてやむことのない今日の世界に、真の平和を招来しすべての人びとに真の幸福をもたらす道は、この

憲法のなかに示されている思想を推しひろめることが根本であります。十七条憲法に示されてある人生観あるいは、平和の理念は、人類全体が守らねばならぬ清規であって、真の平和と幸福への道は、これをおいて他に見いだすことはできないでありません。仏、法、僧の「三宝に帰せずば、何を以ってか枉（まが）れるを直（ただ）さん」との太子のお言葉に、全人類は今こそ謙虚に耳を傾けねばなりません。

それだけに、私共仏陀の教えに生き、太子の憲法をいただく仏教徒の責務は、はなはだ重たいといふべきであります。いろいろの秩序や体制の改革が叫ばれています。それらの主張や思想の根底に、永遠に変わることのない深い理念の裏付けがなかったら、結果はむなしなものとなってしまいうでしょう。

このたび、全日本仏教会の会長に就任して、右のようなことを強く感じますと共に、激動の中にある本会の使命の重さということが、痛切に胸に響いてきます。

大谷光照会長は、昨年十二月に全日本仏教会々長に就任されましたが、本願寺サンフランシスコ別院新本堂の落慶法要と北米各教会の巡教のため渡米し、さらには国連のウ・タント事務総長世界平和のため会談し、十二月二十五日帰国した。



一九七〇年 新年懇親会

# 新春を寿ぎ

## 仏教界発展を誓う

全仏では恒例の新年会を本年は東京芝の東京プリンスホテルで開催した。

新たに就任した大谷光照会長出席のもとに、川島正次郎氏等両院議員、各宗派管長、本山貫首、宗務総長、都府県仏教会代表者等多数に参加し盛大裡に行なわれた。

国内外に問題があるこの年に力強く、世界の平和に寄与すべく仏教徒の団結を誓い合った。

挨拶する大谷光照会長



日本万国博覧会の

日本仏教ガイド書完成

万国博覧会には多数の外国人が来日されるのでこの機会に日本人の生活と精神的軸心になっていく日本仏教の現状について広く知っていただくために、ガイドブックを作製し、この度、初版を発行しました。

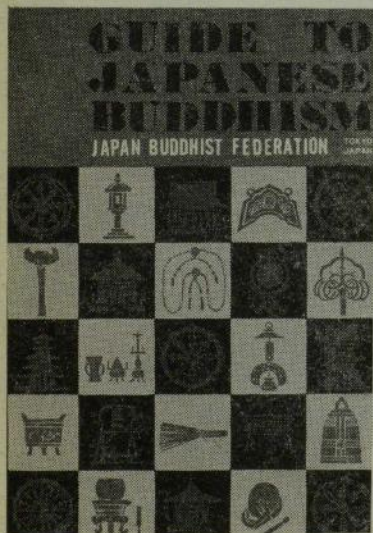
尚、このガイドブックは本文二十頁、上質アート紙使用でA五版である。

編集委員は、村野宣忠、坂東性純、佐伯真光、小笠原隆元、佐藤良純、鎌田良昭、奈良康明、松涛弘道、以上八氏である。

内容は

- 一、日本仏教の特色
- 一、日本仏教の歴史(宗派の流れ)
- 一、有名寺院の紹介(地図使用)
- 一、日常仏教用語の解説

(写真は)ガイドブックの表紙



# 七〇年代仏教界の展望

B・I・C主幹 枇杷田義正

## 教界の前途は？

七〇年代の教界躍進への展望は、全教界の巨視的な視野からの洞察と大乗的見地からの協力・提携がなくては、激動する社会の怒涛は情容赦もなく教界の基盤をえぐり、その存在さえもゆすぶって、巨岩の如くの前途に立ち塞がってくるのではあるまいか。

この技術革新・超音速ジャンボの時代に、教界が社会への指導力を発揮するには、先ず何よりも過去の行跡の一々について厳しく総点検する勇氣がなくては、急速で進展する社会の指導など夢物語りに過ぎまい。国内問題に目をうばわれることなく、広く国際社会の動向を捉えていく感覚が強く望まれる。

国内問題として全教界をゆすぶった学園紛争をみても、アッという間に宗門大争をもその渦中に巻き込め、改めて問題の深刻さを再認識すると、いったことが多かったようである。

では、教界が七〇年代への躍進に「天の時」は与えられているのだからか。今春からの世論の動向と、社会繁栄の予測

のなから、その「地の利」が教界の前途を果して祝福しているかを探ってみたい。

## 人間の回復を全力で

七〇年代の日本の社会が情報化社会への速度を早めていくのは必至の情勢で、全仏が施設参加している万国博は「進歩と調和」をテーマに人間尊重、人類の福祉と幸せを唱いあげ、今春三月十五日に開幕するが、ここでも関係者はコンピュータの導入に大きな期待を寄せている。どんなに情報化社会へ進んでも、人間が機械やシステムの奴隷であってはならない。そういう意味で七〇年代は人間復権の要求がたかまり、新しい「価値観」を模索する時代になろう。というのが一般世論となってきた。

アポロ十一号が月着陸をなしとげた壮挙は人類史上に特筆されるものとして六〇年代末の人類の総結集が高く評価されているが、英国の歴史家アノルド・トインビー博士はこの問題について新春の新聞寄稿のなかで「人類の倫理を高揚しなければならぬ」と指摘し、コンピュータ

のソフトウエアに代表される人類の科学的成果に酔うことを戒めている。日本財界の有力代表者各氏が新春早々から口を揃えて「七〇年代は人間回復の時代だ」と提唱するなど、まさに七〇年代を「宗教・精神」の時代として厳しくとらえ、あたらしい価値観の確立へ全教会の総力を結集して前進することが望まれている。

## 企業動向に目を

国際舞台における日本の地位についてハーマン・カインは「廿一世紀は日本が世界の中心になる」という予測をしており、日本長期信用銀行は、一九七〇年代前半の日本経済の中期展望で「昭和五十年度の国民所得は、ほぼ現在の米国の水準に近づく」というが、そんなに単調に日本の将来が「バラ色の花園」というわけにはいきまい。

日本は、社会の近代化をなしとげ一流の経済国の水準に達したのは、ここ一世紀足らずの間で、西欧の国々のように数世紀にわたる蓄積がないため社会投資にいちじるしい立遅れがあり、スモック、

騒音など各種の公害問題は深刻で、学園紛争も表面は小康を保っているものの、七〇年代を革新変革のときとする思想の動きは、つけ刃のような大学立法などで処理しつくせない根深いもので、解決を迫られている国内問題は山積している。長銀調査が示した中期展望というのは五十年度の国民総生産は実質で約九十八兆円、名目で約百四十八兆円と現在の三倍弱の規模に達し、また一人当たり国民所得は三千ドル(百八万円)を越える。

というが、果して日本の産業界が手放しで喜べるかどうか。関税貿易一般協定(GATT)事務局が発表した一九六八年の年次報告のなかで日本の経済に言及して

日本の戦後の発展をいりどる特色は急速な近代化過程の初期に、西欧諸国に比べ、かなり豊富な余剰労働力に恵まれていたため、総雇用人口、とくに製造業の就業人口を急速に増加できたことである。

日本の経済を進展させた要因は次第に消滅しつつある。すなわち製造業部門に対する新規労働力の供給減少という傾向は今後も続くものと考えられる。ことに十五・十九歳の年齢層の絶対数が減り続けている。

と日本の危機を指摘し、それをカバーするには省力設備の導入によるしかないとして

こうした事態に直面して、なおかつ高水準の成長率を確保していくためには、労働生産性を確保していくためには、労働生産性の加速度的な向上を必要とする。今後は生産性の向上は、省力的な生産設備の導入による生産性の

向上が重要になるものと考えられる。と問題点を鋭くえぐっている。産業界が世界的視野からの忠告をうけいれて再編を急いでいることは、既に御存知のとおりで、業界の体質強化をめざす再編は可成りの速度ですめられている。

こういった動きに呼応するように、労働界も思想や組織を超えて国際労連のラインに再編されつつあり、金融界も再編気運が進み、昔日の金銭出入管理者から脱皮して「国際化、情報化時代の長期金融機関にむかひ、内外の経済産業や企業動向に関する重要情報を正確にキャッチし、これを取引先企業経営に役立たせてもらう。つまりこの情報を基に企業のコンサルタントの役割を果すことが、これからの銀行業務のポイント」（日本長期信用銀行）というように変質して時代のリードを握る気構えが窺われる。これらと各界の動向を、教界のリーダーや有識者は正視して欲しい。

### 精神的貧困は仏教徒の手で

復興だ、生産増強だ、と物質・物量第一主義から人間没却の物質万能の思潮に押しつぶされて、ものの中に埋没してしまった人間に初めて気付いた産業界・財界のリーダーは、七〇年の年頭から声を大にして「人間回復」を叫んでいるが、これこそ教界に与えられた強縁といえるのではなからうか。

さる一月五日、経済五団体の共催による初の新年祝賀パーティー（東京・赤坂のホテルオークラで開かれた席上、財界の代表格である桜田武日本経営者団体連盟代表常任理事（日清紡会長）は「物質的豊富と精神的貧困の不均衡をただすが急務である」と強調している。

東京商工会議所副会頭・東芝電機の土光敏夫社長は全社員への年頭の挨拶の中で

六〇年代の急速な経済発展によって生れた大きなヒズミを是正し、遅れた面を取戻すことが七〇年代の課題である。――疎外された人間をどうするか七〇年代こそ人間自身のみならずからの尊厳を守っていくことに力点をおかねばならない。

とのべている。朝日新聞は社説で「人間はどこへ行くのか」のなかで訴えている。いったいわれわれ人間はどこへ行くか、その行手に待って世界はどのようなものだろうか、という深刻な疑問が生まれた。コンピュータという言葉はあっても、もはや技術の進歩、情報の氾濫がそのまま人間に幸福をもたらすと、単純に信じる人はいまい。それはことによると天国ではなく、無限地獄への道に通じているかもしれない、との不安と恐怖がこの世界をおおっている。

実際、しだいに鳥も歌わず、花も咲かなくなつてゆく荒廃の自然を目の前にしては、この想いを杞憂といきれぬ者はおるまい。このままでは人間は物理的、生理的に生きることさえ、むつかしくなりかねない。

世の移り変りの激しさからいえば、いまの一年はむかしの十年、いまの十年はむかしの一世紀にも当るかもしれない。だがそんなに急いで、いったい人間はどこへ行くかとしていいのか。だがその未来図を、たとえおぼろげなりと描き得る人がいるのだろうか。これによると七〇年代という十年は、人間の将来を決定する分岐点なのではな

いだろうか。人類が、より輝かしい文化を求めて不断の向上の道を歩み得るか、またはわれとわが手で自分の首をしめる滅亡への道をたどるか、その重大な岐路が、われわれの前に示されているようにも思える。人間はここで一度、自分自身の姿をじっくりとみつめ直す必要があるのではなからうか。それにしても、この重大な時にあつて十年一日のごとき政治は、いったいいつその惰眠から醒めようというのだろうか。

と、敵しい七〇年代の巖頭に立たされた人類の救済を訴えている。

このように、日本の代表的な財界人やジャーナリズムが、異常なまでの経済発展の重圧におしひしがれた人間回復を強調しているのを見ても、七〇年代の把握と探究は、教界に課せられた至上の命題として取組まざるを得ない問題提起ではなからうか。

この社会の熱望にこたえる教界の具体策は、どんな構想があるのかの検討に入るまえにいま一つ、未来学者や未来想定のかなかに宗教がどんな形とらえられているかを見ることが、これからの教界活動の在り方を考えていく上での参考になるのではあるまいか。

三十年先の廿一世紀の宗教について朝日新聞社刊「二〇〇一年の日本」で作家の小松京氏が次のように論じている。

人類社会における科学技術の進歩は地球上のさまざまな地域にわかれて存在している社会集団を生活において次第に一つにむすびつけ、同時に知識・情報の流通速度と密度の飛躍の上昇はこれまでの人間の意識面における、特定地域社会、特定集団への帰属感、帰

属志向を、どんどん稀薄化しつつある。既存の「世界的大宗教」八仏教・キリスト教・イスラム教などといえども、現在はげしい勢いで進行しつつある「地球社会化」現象をカバーしきっていないし、また現在の形態のままでは、カバーできるとも思えない。とすれば、現在から将来にかけて、かつての宗教が果たした機能を、一部代替しつつあるものは何か。

宗教の機能の一つとして、ある特定の集団への帰属意識の保証があげられます。これは、近代国家成立以降、ある程度国家によってとってかわられた。

未来へかけて、「地球社会状況」の中でより一層重大になってくる宗教的要素「生きがいの問題」「人生の目的をあたえること」「超越的なものへの対決と帰依」といった問題は、現在、一部のすぐれた知性が遠望をあたえてくれているだけで、国家も、国際社会組織も、現在のいかなる組織もとり上げる気配はなく、とりあげるにふさわしい組織は存在していない。

人類がさまざまな歴史的段階をへて地球的にひろわれた社会に到達した時、人類という心と知恵をもった生物にその所与の条件においてあたえられていた「根源的な宗教性」が最後に直面するのはこの問題であり、それは「四十億年の生物史をもつ地球社会をふまえた、超越的な宇宙および宇宙史との対決と帰依」といった問題の形をとるだろう。この問題は、個々の人間集団社会が立ちむかう正当性を、保証する知的体系こそ、未来の地球的宗教あるいは、超宗教ともいうべきものになつていくであろう。

来る五月二十七日から三日間、東京杉並和田町の普門会館を会場に、第二十回日本病院学会(会長小野田敏郎医師)が開かれる。この学会は七部会に分れて、それぞれのテーマを中心に、シンポジウムやハネルデスカッションが行われるが、その第一部のテーマは「病院と宗教」となっている。最近俄かに医療と宗教の問題が採り上げられて来た理由には色々あると思うが、特に臓器移植を契機に「死とは何か」という根本的な問題が厳肅な姿で問われ出したこと。また癌などの現在の時点では極めて絶望的な病気に罹った場合、これを本人に宣告すべきかどうか。若し宣告によって本人の受けるショック、更に宣告されなくとも本人が癌を自覚した場合の死に対する恐怖、生への執著と苦悩を治療上どのように処理すべきか、或は様々な要因から来る現代人のストレス、そして、それを原因とする色々な病気に對して現代医学は耐え得ない状態を示して来たところに宗教の問題が、医学界側から採り上げられて来たようである。勿論このような傾向に反発する医学者はまだまだ多い。古い時代には洋の東西を問わず医学と宗教は色々な形で結びついていて、わが国でも、医王寺や薬王寺という寺号の存在することはこの間の事情を物語るものである。しかし明治の初年西洋医学を輸入することに急であつたため、従来の漢方や東洋医

## 輪法転

# 医療と仏教

仏教は自然の法を無分別智によつて直観!これを色々の言葉で表現しているが、この法そのものは実はすべての人間に内在する。つまり悉有仏性と言っているが、その仏性に叶つた人間のあり方を教えるのが仏教であるとするなら、自然の法の前に医学も仏教も、ともにそれに叶つて存在して生き続けることを仲立し、教え実践せしめる点では全く同様である。

このように医学も仏教も、ともに人間そのものを問題としてるのであるが、要は人間の把握の仕方である。従来の医学は人間の理解を物質として捉えることに重点をおき、自然科学

的な技術を治療の根本として来た。もちろん人間も一面物質である限り、物質を支配する方則の適用は必要である。しかし一面なる物質ではなく有機的統一体であると同時に、意識を持つている心身結合体であり、一人一人自主性を持つものではあるが、他に関係することなく存在することは不可能であつて、いわゆる生かされているのが人間であるし、更に自覚的存在であるが故に、死の恐怖や生の苦悩、或はその意義を自覚するのが最も重要な人間の特性である。医学がこのような人間の実体を把握することなしに、自然に働きかける技術に偏重していたことが、

も早やどうにもならない場面に直面して宗教や哲学の世に關心を持たざるを得なくなつた所以であらう。技術は病気を療し得ても、病人をいやし得ない。病人を治療する仁術のためには、医学教育に、哲学や宗教の学習やその情操の涵養が要求される。ヒポクラテースは「医者にして哲学者たるものは神に等しい」と言つたという。しかし、これはなかなか容易な業ではない。だからといって宗教者が病人に對して自派の信仰を強要するような協力の仕方は絶対にさけるべきであり、病院又は病人の求めに応じて人生相談を担当する良識ある宗教的カウンセラーといったようなものを派遣し得る体制が考えられていいのではないか。

ジャカルタ (2泊) → ポロブドゥール (3泊) → バリ島 (2泊) → バンコック (2泊) → アンコールワット (2泊) → 香港 (1泊)

東南アジア旅行の決定版!!

## ポロブドゥール・バリ島・アンコールワット 13日間の旅

◎ 5月16日(土)出発～5月28日(木)帰国

◎ 参加費用 ￥333,000

お問い合わせ、お申し込みは ジェットエア サービス代理店

仏蹟参拝専門の 株式会社 子代田トラベル

東京都港区南青山5丁目6番20号(千成ビル)

電話 407-3612-3

郵便番号 107

現場

# 宗務庁・新聞布教 (1)

日蓮宗伝導部新聞課長

尾 谷 卓 一

情報化時代にふさわしく、最近では宗教界でも教団ごとに立派な機関紙をもち、大きなところでは担当のスタッフもそろえ、世間の一流新聞顔負けの威容を誇っているところもみうけられる。

とくに新興教団においてこうした傾向が強く、布教活動の大きな推進力となっており、こしはばらくは威力を発揮するであろうし、内容の良否は別として、既成教団も大いに学ぶ必要があるのではないかと思う。

しかしこの機関紙の衰路は、おおむね護教的な色彩が濃くということ、魅力に乏しいという批判はまぬがれない。

たとえ機関紙において教団の魅力を大いに盛りあげても、他紙が平然と教団の醜聞をすっぱぬいては、百日の説法屁一つ々ということになり、読者はえてしてそうした醜聞を耳をそばだてたがるといふ精神構造を持っているのである。

したがって機関紙が魅力あるものになるためには、教団の内容がしっかりしていなければ、十分な威力を発揮できない筆先だけで読者を引くことは不可能なこと、肝に銘じてかからなければならぬ。

だから機関紙は、その教団の反射鏡のようなものであって、教団の活動がそっくりそのまま、誇張されたり、ゆがめられたりせず活字や写真で表現されるのが好ましい。要は教団の息吹きが機関紙の息吹きと一つであれば、それが最上できばえといえるのだと思う。

もう一つ大事なことは、機関紙は以上の公共性をもつとはいえず、多くの場合営利事業であることも忘れてはならない。新聞を売って購読料金をとり、広告を紙面に掲載して広告代金をとる。ある意味では公共性の確保と利潤の追及は矛盾しているようにも見える。

しかし特定教団のようになかば強制的に購読させられるものであるならばいざ知らず、前にのべたように教団の息吹きを正しく伝える(真実と公平)ことによつて読者から支持され営利事業として成り立っていくということならば認められてもいいのではないかと考える。

したがって事業として見た場合も、読者すなわち信者から信用されないものをつくることは、機関紙の自殺行為だといえる。特定の個人のために、あるいは一党一派のために真実にそむき、公共に反

する機関紙を提供すれば、世論はその新聞を軽べつし、永年の愛読者も袂を分けて去っていくことであろう。故に機関紙は自己保存のためにも公共性の確保と向上にとめなければならないのである。こうした前提をふまえて日蓮宗新聞は常に三つの方向に顔を向けている。

一つは宗日蓮僧侶自身にである。機関紙的性格をもって宗門の動向、内局の意志宗門人の意見の集約の報道を通し、同門人の連帯感の強化を図る役割を果たすことを使命としている。昭和四十六年に迎える、「日蓮聖人降誕七百五十年」をめざして宗門組織の強化は現下の緊急時であり、その盛りあげは緊密な連絡と、宗門内の共通の認識の上に確立されるものであるだけに、日蓮宗新聞の持つ役割りは重大であるといえよう。

二つは宗徒の人々にある。宗徒の宗門意識を育成するためには、絶えまなく宗門の全動向を報じ、教団のもつ教義と歴史を伝え、誇り高き宗門所属の意識を持たせ信仰増進を計らなければならぬ。信仰は個人の孤立のなかで維持するのは困難である。

三つは一般大衆にである。尊とい法華信仰と宗門の息吹きを全世界のすべての人々に報らせるために絶えまなく発行しつつ、教化・布教の役割りを果たす使命を背負っている。

以上今回は「日蓮宗新聞」を発行する上での抽象的な地盤についてふれたが、次回から日蓮宗新聞の歴史、宗門と新聞とのふれあい編集上の苦心、販売上の問題点、編集会議など具体的な諸問題についてふれてみたいと思う。

## 太平洋諸島戦没者慰霊祭開催

(梅友会第一回全国大会)

昭和46年2月 第2週予定 10日間  
各種訪問地 沖繩・グアム・サイパン・ハワイ

旅行のお世話は近畿日本ツーリストが行います くわしくはパンフレットにて

連絡先 ☎ 460 名古屋市中区大須三丁目39番33号

TEL ナゴヤ <052>241-0901・1920

法衣・装束・神仏具品 梅金商店内 梅友会事務局 幹事 山田二三雄  
贈答用記念品

### 西山浄土宗

#### 信徒会館急ピッチ

西山浄土宗では、信徒会館の土台作りがはじまった。

#### 大谷派育英財団で 山科寮を建設

大谷派育英財団では、京都山科南殿跡に、奨学生のための山科寮を建設する。これは、宗門の人材養成のため大学院の奨学生を収容して徹底的に修練を行なうことを目的とする。鉄筋コンクリート三階建てで、五月中完成の予定。

#### 大正大学学長に 芙蓉良順氏が就任

大正大学では、櫛田良洪学長の任期満了に伴ない、後任学長として芙蓉良順氏(同大教授・真言宗智山派)を選出した。

#### 親鸞聖人生誕 八〇〇年記念事業に 「興正会館」を建設

#### 真宗興正派

真宗興正派では、昭和四十八年が、親鸞聖人生誕八〇〇年記念となり、そり記念事業として本年七月までに、門信徒の研修宿泊施設を主とした興正会館を建設することになった。

#### 浄土宗西山禅林寺派で 信徒会館二月に完成

浄土宗西山禅林寺派では、開

宗八百年記念事業として、昨年より建設を進めていた信徒会館が本月完成の運びとなった。

これは、教化センターとして僧侶の再教育の道場など多角的に使用されることになっている。

#### 曹洞宗で、今春から 「曹洞宗全書」を出版

曹洞宗では、一宗をあげて、「曹洞宗全書」の複製版、改訂増補版と続巻を出版刊行することになった。「曹洞宗全書刊行会」を組織し、総予算は約五十万円、約三十巻を出版する。

#### 埼玉県仏新春懇談会

昨年全国にさきがけて財団法人になった埼玉県仏教会では、さる一月十日午前十一時から川越市連馨寺において新春を祝い県仏の強化発展を誓うとともに井上恵行博士の紫綬褒章受賞の祝賀もかねて盛大に行われた。全仏から柳組織、小沢国際兩部長が出席しあいさつした。当日出席者

#### 千葉県仏で 印度仏跡巡拝へ出発

千葉県仏教会(理事長熊野竜夫師)では、二月五日羽田国際空港より仏跡巡拝に出发する。

#### 積尊降誕花まつりで日 本仏教鑽仰会篤敏郎交 響曲演奏会を開く

積尊降誕花まつりで日本仏教鑽仰会篤敏郎交響曲演奏会を開く。日本仏教鑽仰会(理事長・中山理々師)では、本年の積尊降誕花まつりを、四月四日(土)午後一時より日比谷公会堂で、東京交響楽団(指揮・秋山和慶氏)により、篤敏郎交響曲演奏会を開く。曲目は、同氏の作品で、「曼荼羅」「涅槃」が演奏される。これには、東京混声合唱団等二合唱団、さらに特別に大木山高尾山薬王院修驗道が出演する。尚、第一部に、「宗教と音楽」と題し、作曲家篤敏郎氏が講演する。

#### 岐阜県仏では 四月より 宗教法人事務指導

#### 岐阜県仏教会(会長・大石好文師)では、現在まで各地域ブ

ロックごとに宗教法人の事務研修会を行なってきたが、本年四月より具体的指導を各地域ごとに行ない県仏当局から専門指導員二氏を巡回させることになった。同県仏では、檀信徒会とも

に、岐阜県警察本部に協力しておとしよりの交通事故防止運動を行ない、昨年秋季よりポスター標語を県下一帯にはり、あらゆる機会に呼びかけている。いのちを大切にすする仏教徒の願いと責務において本年も継続する。

#### 香港仏教会が 総合病院を完成

香港仏教会(僧侶と檀信徒で構成)は、仏教徒と香港政府の援助によって、九階建の香港仏教総合病院を完成し、本年四月一日落慶式が行なわれる。

この病院は、ベッド数三百五十を持ち近代的な施設が整っている。

尚、同仏教会はこの大事業完成を記念して、四月一日から十日まで世界各国の仏教徒代表を招待し、世界平和と繁栄をテーマに意見の交換を目的とした国際仏教会議を開催する。

#### 第十八回全仏新潟大会 準備進む

新潟仏教会(会長・土田真也

師)では、本年十月七日、八日の二日間長岡市厚生会館で第十八回全日本仏教徒会議新潟大会が開催されるので、主としてその任にあたる長岡市仏教会の井上会長、中村大会事務局局長等は岐阜県仏への視察やマッチによる大会盛り上げのため、着々と準備がなされている。

#### 宗派県仏団体人事(就任)

#### 静岡県仏教会

会長 田中亮三  
事務所(静岡市城崎(福王寺内))  
TEL〇五三三三一二五三三八

#### 千葉県仏教会

事務所(住居表示変更)  
千葉市中央四ノ五ノ六(光明寺内)  
電話番号変更  
横浜〇四五―四三二二〇一(天代表)

#### 孝道教団本部

真言宗豊山派大本山護国寺

貫首	小林良弘
執事	岡本永司
院務部長	関本憲了
庶務	内山信一
法務	板子法伝
教化	金子隆照



#### 表紙のお寺

日蓮宗のお寺。感応寺。日本三感応の一つもと滝泉寺と称し、台密の古刹であったが六老僧の一人日向によって日蓮宗に改宗。戦争によって焼失したが、表紙のお寺として現在に至る。

所在地

静岡市駒形通一ノ五ノ五住職 伊藤明師